ストーブ火災を防ぐポイント

- ■ 外出時や就寝時は必ず消す。
- ■ 周囲に布団やカーテン、洗濯物などの燃えやすいものを置かない。
- ■ スプレー缶は近づけない。
- ■ 給油は必ず消してから行う。

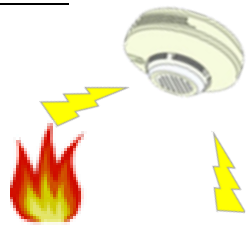


ストーブ火災に備えて

住宅用火災警報器を全ての居室・台所・階段に設置しましょう

住宅用火災警報器の設置により火災の拡大を防いだ事例

バスマットを電気ストーブにかけていたところ、何らかの原因でストーブのスイッチが入り、火災となりました。住宅用火災警報器の鳴動により火災に気づき、119番通報と消火器による初期消火を実施し、火災の拡大を防ぎました。



カーテンやじゅうたん、寝具類など住宅内の布製品は防炎品にしましょう

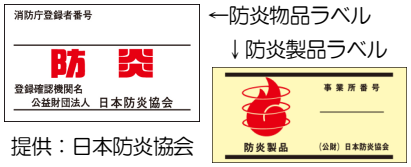
防炎品の使用により延焼拡大を防げたかもしれない事例

ダイニングテーブルの下で使用していた電気ストーブの電源をつけたまま外出し、付近に置いていた木製椅子の脚及び座布団等の可燃物が電気ストーブに接触して出火しました。



防炎品は、火が接触しても容易に着火せず、着火しても延焼拡大を停止する自己消火性を備えた品物です。

防炎品ラベルは2種類あります



提供：日本防炎協会

※　ラベルには様々な様式があります。

問　合　せ　先

東京消防庁 防災部 防災安全課　電話番号 03－3212－2111　内線4196

令和8年1月発行



STOP！ストーブ火災

STOP！住宅火災シリーズ③　火災から大切な命を守ろう

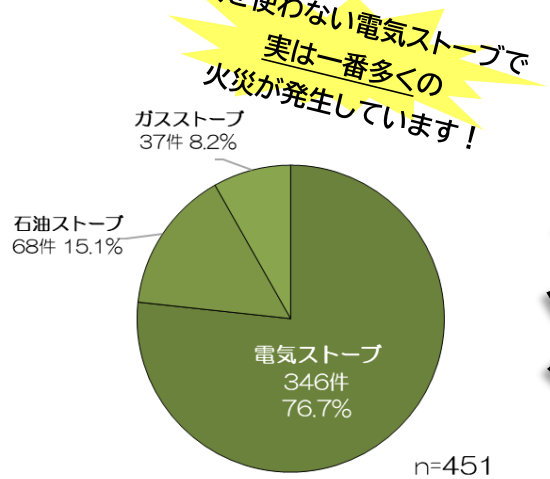
冬に急増！電気ストーブも要注意！

- ■ 過去5年間で東京消防庁管内においてストーブを出火原因とする火災が451件発生しました。
- ■ 電気ストーブによる火災が76.7%で、非常に高い割合となっています。





電気ストーブに布団が接触し焼損した状況

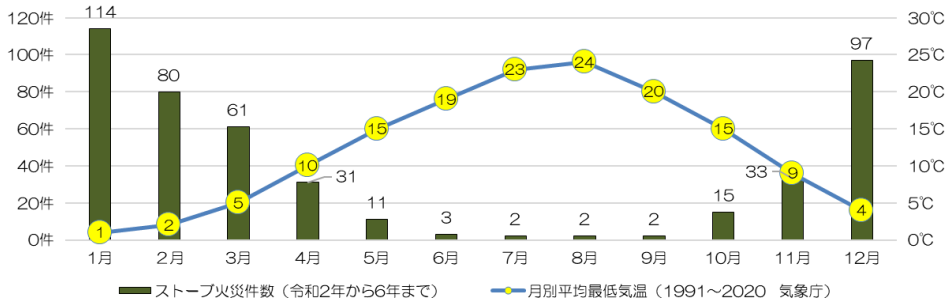


出火原因ストーブの内訳
(令和2年～6年 住宅火災)

東京消防庁

寒い時期を中心に発生！

■ ストーブ火災は、**平均最低気温15度**となる**10月の秋頃から増え始め、4月の春先にかけての時期**を中心に発生しており、注意が必要です。



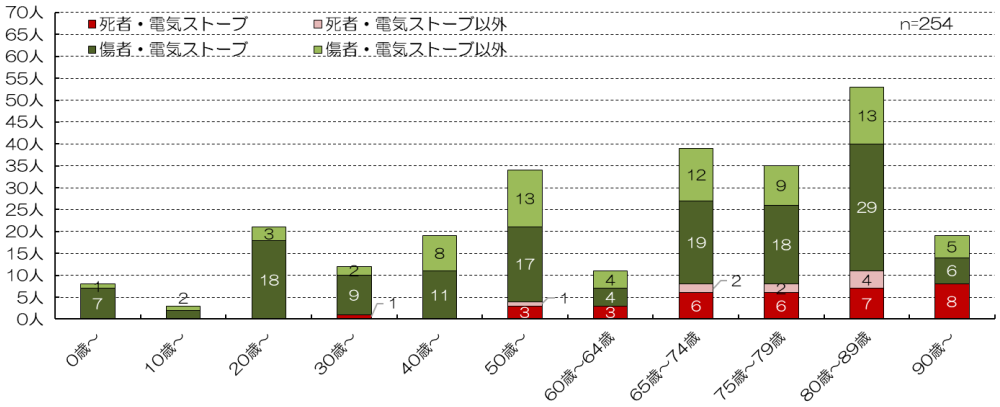
月別のストーブ火災件数（令和2年～6年　住宅火災）

死傷者の発生状況（過去5年）

■ ストーブ火災による**死傷者は計254人**(死者43人、傷者211人)で、このうち約7割の174人は電気ストーブが出火原因となっています。

■ ストーブ火災による**死者は43人**で、このうち**34人は電気ストーブ**が出火原因となっています。また、死者43人のうち**35人**が**65歳以上の高齢者**です。



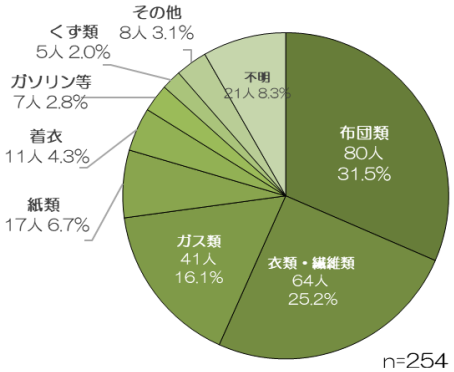


年齢別のストーブ火災による死傷者数（令和2年～6年　住宅火災）

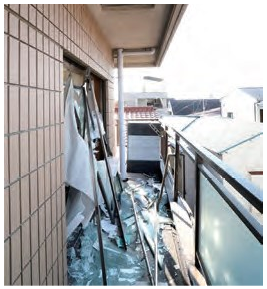
ストーブの周りに物を置かない

■ 死傷者254人のうち、**布団類や衣類・繊維類の可燃物に着火**した件数は144件で、56.7%となっています。

■ **ガス類(スプレー缶等)**が3番目に多くなっています。



着火物別のストーブ火災（令和2年～6年 住宅火災）

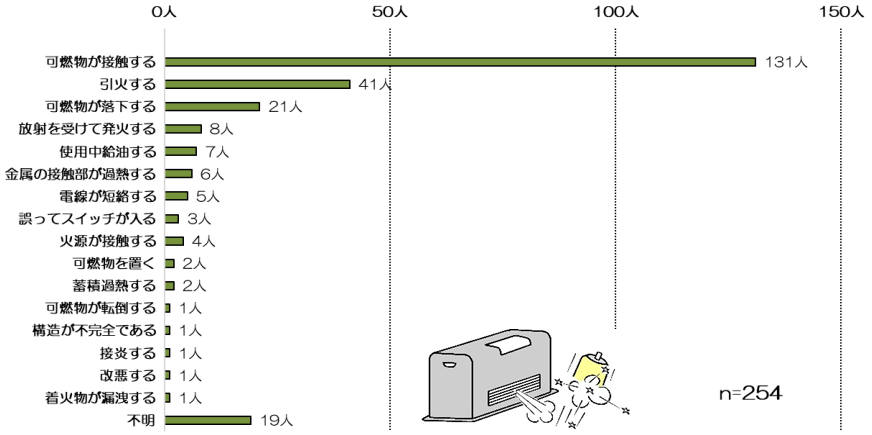


室内でストーブが原因となりスプレー缶内のガスに引火し爆発した火災
（屋外ベランダの様子）

スプレー缶廃棄時の火災も発生しています！

スプレー缶を捨てる時は穴をあけたりせず、**必ず最後まで使い切ってから**自治体の廃棄方法に従って捨てましょう。

■ **可燃物とストーブが接触**することや、ストーブ付近のスプレー缶等が高温になって破裂し、漏れた**ガス類へ引火し爆発**することによって、火災が発生しています。



出火経過別のストーブ火災件数（令和2年～6年　住宅火災）